

平成26年度保健体育科授業充実事業

中学校保健体育科授業実践事例（球技）

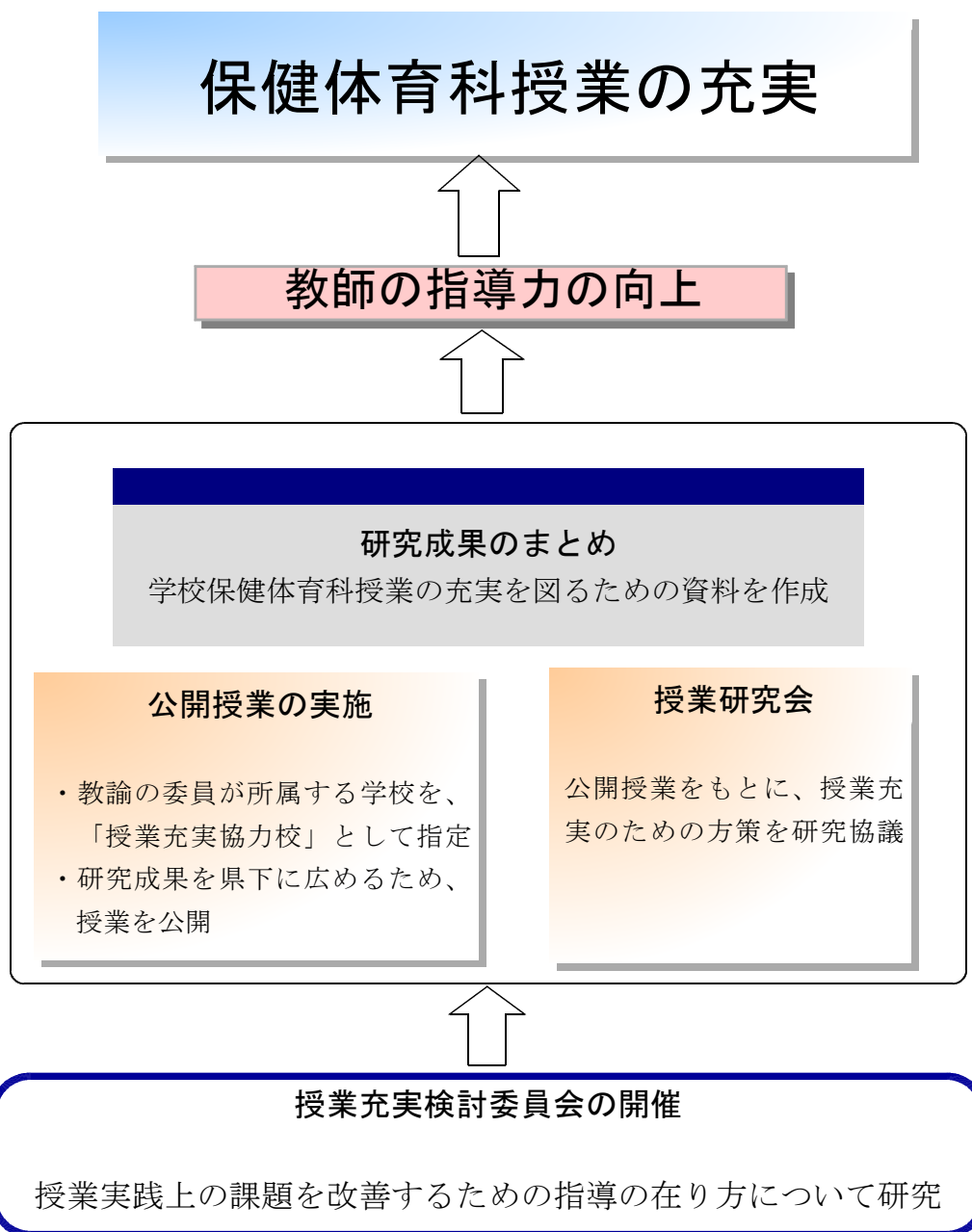


群馬県教育委員会
（健康体育課）

1 保健体育科授業充実事業の概要

授業充実事業とは

中学校保健体育科授業の充実を図るため、授業実践上の課題を明らかにし、課題解決のための方策等を具体化することで、教師の指導力の向上に資する。



2 実践事例

実践事例 1

<参考資料>

- ①学習指導案
- ②学習カード等

期 日：平成26年10月31日（金）
会 場：みどり市立笠懸中学校
単 元：バレーボール
学 年：1年男
授業者：今泉 淳 教諭

実践事例 2

<参考資料>

- ①学習指導案
- ②学習カード等

期 日：平成26年11月20日（木）
会 場：安中市立第一中学校
単 元：サッカー
学 年：3年男女
授業者：清水 清志 教諭

平成26年度授業協力校及び授業充実推進員

みどり市立笠懸中学校 今泉 淳 教諭

安中市立第一中学校 清水清志 教諭

平成26年度授業充実検討委員

藤倉 慶之（東部教育事務所）

神山 亮一（みどり市教育委員会）

市村 敏男（西部教育事務所）

城田 敬子（安中市教育委員会）

勅使河原誠（健康体育課）

[参考資料]

- ・ 中学校学習指導要領解説保健体育編【文部科学省】
(平成20年9月)
- ・ 評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料
(中学校 保健体育)
【国立教育政策研究所 教育課程研究センター】
(平成23年7月)
- ・ はばたく群馬の指導プラン【群馬県教育委員会】
(平成24年3月)

保健体育科学習指導案

平成26年10月31日(金) 5校時 体育館
みどり市立笠懸中学校 1年4・5組男子
指導者 今泉 淳

【授業の視点】

チームで三段攻撃の練習する場面において、ラリーゲームの具体的な場面を複数提示し、三段攻撃につながる動き方を考えられるようにしたことは、ボールの扱い方やボールを持たないときの効果的な動き方が明確になり、三段攻撃の続くラリーゲームを楽しむことにつながるであろう。

I 単元名 球技(ネット型:バレーボール)

II 単元の考察

1 生徒の実態(男子32名)

【関心・意欲・態度】

バレーボールについてのアンケート結果から、バレーボールに対するイメージを「楽しそう」「おもしろそう」と前向きにとらえている生徒は14名であり、「つらそう」「痛そう」「つまらなそう」と悲観的に回答した生徒が11名であった。バレーボールを「見たことがない」と回答した生徒も複数存在している。生徒のバレーボールに関わる実態や受け止め方は多様であるので、どの生徒も楽しめる教具の工夫や学習の進め方に留意していく必要がある。

これまでの授業では、活動に積極的に取り組もうとする生徒がほとんどである。また、ゲームでは、ルールを守ったり相手を尊重したりした言動もできるようになってきている。その一方で、審判や記録等の役割への取組については個人差が大きい。準備や片付け、活動中の安全には留意しながら協力して取り組むことができている。

【思考・判断】

これまでの授業の様子から、学習カードやポイントカードなどを見ながら、自分やチームの課題を意識しながら取り組む姿が見られるようになってきている。グループ活動では、互いに声を掛け合ったり、映像を見ながらポイントを確認し合ったりして、自分やチームのよりよい動きを考えられるようになってきている。このことから本単元では、チーム内で動きを見合い、チームの作戦などに応じた動き方が主体的にできるよう学習形態や学習の場を工夫していきたい。

【技能】

バレーボールをしたことがあると回答した生徒は9名であった。小学校段階においてソフトバレーボールは全員が経験してきてはいるものの、バレーボールそのものの経験は少ない。これまでの授業においては、マット運動や陸上競技などでは、自分の体を上手に使い、きれいなフォームで回転したり、走、跳、投の各運動で記録を伸ばしたりするなど、運動を巧みにできるようになってきている。経験の少ないバレーボールではあるものの、段階的な指導をおこなっていくことで、バレーボールの基本的な技能や仲間と連携した動きを十分身に付けていけると考える。

【知識・理解】

「サーブ」「トス」「レシーブ」「スパイク」などの基本的な用語を知っている生徒は多い。「リベロ」「ブロッカー」「タッチネット」など専門的な用語を知っている生徒も存在する。しかし、人数や点数の入り方、勝敗の決め方を正しく理解している生徒は少ない。用語については、聞いたことがあっても、用語の内容を正しく理解している生徒は少ない。このような実態であるため、オリエンテーションにおいて基本的なルールや用語、ゲームの進め方を押さえたり、授業の中で積極的にバレーボールの用語を使ったりするとともに、用語と動き方がつながるよう丁寧に学習を進めるようにしたい。また、ルール等をきちんと押さえ、自信をもって審判等の役割を果たせるようにもしていきたい。

2 教材観

バレーボールは、ネットをはさんだ2つのチームが互いにボールを相手コートへ打ち合うチームスポーツである。ネットをはさんでいるため、お互いが自己のプレーを直接妨害されることなく攻撃しあえるので、チームの作戦を基に声を掛け合ってコミュニケーションをとりながら、互いに助け合ったり、教え合ったりしていくことでチーム力が高まる楽しさや喜びを味わうことができる。

バレーボールでは、チームの仲間が連携し、レシーブトスアタックという三段攻撃をおこなうことが攻撃の基本となる。三段攻撃ができるよう、個やチームで課題を見付け、課題の解決に向けた練習を互いに協力しながら取り組めるようにしていくことが大切である。そのようにしていくことで、チーム内の役割を誰がどのようにおこなうのかを瞬時に判断したり、ボール操作やボールを持たない時の動き方について考えたりできるようになる。

バレーボールは、腕や指先を中心にボールを操作し、パスをつないだり攻撃につなげたりしていく。そのため、ボールを受ける前の体の構え方や腕の扱い方、ボールのとらえ方などを身に付けることが大切である。また、ボール操作に加えて役割に応じたポジションにつくことや、ボールの動きに応じた位置に移動すること、ボールに対して正対することなどの動き方を身に付けることも大切である。さらに、これらの個人技能を基にして、味方が操作しやすい位置にボールをつなげ、相手コートにボールを返したり攻撃したりする仲間と連携した動きを身に付けることも必要である。これらのことに対しては、個別やチームの練習、ゲームの中で技能の上達の様子を踏まえながら段階的に取り上げ、意識して取り組めるようにすることで、これらの技能を効果的に身に付けることができる。

これらの取組をおこなっていく過程でバレーボールの技術の名称やゲームのルールや進行方法、審判法等を身に付けることができる。また、準備や後片付け、練習やゲームを通してマナー及び安全に取り組むための態度についても身に付けていくこともできる。

3 教材の系統

【中学1年】

- ・味方がいる位置にボールを送る。
- ・相手の打球に備えた準備姿勢をとる。
- ・ボールの中心をとらえる。
- ・考えを伝え合いチームの課題を見付け練習する。

【中学2年】

- ・味方が操作しやすい位置にボールをつなぐ。
- ・自分の役割を意識して、準備姿勢をとる。
- ・ボールの中心を力強くとらえる。
- ・考えを伝え合いチームの課題解決に向けて正しい方法の練習に取り組む。

【中学3年】

- ・次のプレイをしやすい高さや位置にボールをあげる。
- ・役割に応じてひろったり、つないだりする。
- ・ボールを狙った場所に打つ。
- ・相手に配慮した発言をして、課題解決に向けた効果的な練習に取り組み解決する。

Ⅲ 単元の目標

- (1) ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開することができる。【技能】
- (2) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについて話し合いに参加しようとする、健康・安全に気を配ることができる。【態度】
- (3) 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる。【知識、思考・判断】

IV 評価規準

観 点	おおむね満足できる	十分満足できる
運動への関心・意欲・態度	①積極的に学習に取り組み、バレーボールの楽しさを味わおうとしている。 ②仲間と協力しながら活動している。 ③分担した役割を果たそうとしている。	①チームで協力しながら、積極的に学習に取り組み、バレーボールの楽しさを味わおうとしている。 ②仲間と協力しながら、よさを認め賞賛している。 ③分担した役割を進んで果たそうとしている。
運動についての思考・判断	①自己やチームの課題を指摘することができる。 ②ボールの扱い方やボールを持たないときの自己の動き方がわかる。 ③チーム内での自分の役割を見付けることができる。 ④仲間に自分の考えを伝えようとしている。	①自己やチームの課題を相手チームの特徴を踏まえて指摘することができる。 ②ボールの扱い方やボールを持たないときの自分や仲間の効果的な動き方がわかる。 ③チーム内での役割分担を見付け、指摘できる。 ④仲間の考えを聞きながら、自分の考えを伝えている。
運動の技能	①アンダーハンドパス・オーバーハンドパスでボールを返すことができる。 ②役割に応じた場所へ動いたり、ボールの位置に応じて空いた場所へ動いたりできる。	①アンダーハンドパス・オーバーハンドパスで狙った場所にボールを返すことができる。 ②仲間の状況を踏まえながら、役割に応じた場所へ動いたり、ボール位置に応じて空いた場所へ動いたりできる。
運動についての知識	①技術の名称や行い方をおおむね理解している。 ②バレーボールで高まる体力についておおむね理解している。 ③バレーボールの技能の高め方をおおむね理解している。 ④試合の進め方や審判法をおおむね理解している。	①技術の名称や行い方を理解している。 ②バレーボールで高まる体力について理解している。 ③バレーボールの技能の高め方を理解している。 ④試合の進め方や審判法を理解している。

V 指導と評価の計画

	課程		つかむ				ひろげる				まとめる				
	時間		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	
学 習 内 容	導 入	10分	シ ョ ン エ ン テ ー	集合・整列・あいさつ・準備運動・ドリル練習・学習のめあての確認											
	活動①	15分		個人技能の練習 ・アンダーハンドパス ・オーバーハンドパス等	チーム練習 ・ゲーム場面を想定した ケース練習中心				チーム練習 ・チームの課題に応じた 練習						
	活動②	20分	試しの ゲーム	パスゲーム ・パス中心の簡易 的なゲーム	ラリーゲーム ・三段攻撃に視点を当て たゲーム				リーグ戦②						
	まとめ	5分	学習のまとめ・振り返り（学習カード等に記入）・整理体操												

過程	時	学習内容	学習への支援	関	思	技	知
つかむ	1	○オリエンテーションを通して単元の見通しを持つ。 ○基礎的なルールや用語等を理解する。 ○試しのゲームに取り組む。	・日本代表の試合のVTRを視聴させることで、バレーボールに対する学習の興味や見通しをもてるようにしたり、基礎的な用語を理解したりできるようにする。				① ② ③ ④
	2 3	○基礎技能（アンダーハンドパス及びオーバーハンドパスを身に付ける）。 ○アンダーハンドパス・オーバーハンドパスを用いたパスゲームに取り組む	・それぞれのパスについて動きの大切なポイントを伝えたり、考えたりできるようにする。 ・身に付けたパスを用いて楽しくパスゲームに取り組めるようルール等の工夫を提案する。			①	
	4	○基礎技能を習熟する。 ・対人パスや円陣パス ・ネットをはさんでのパス ○パスゲームに取り組む。	・個々の技能が確実に上達するよう個別指導を充実させる。 ・場面に応じたパスの使い分けについて考えられるようにする。 ・パスゲームでは、三段攻撃につながるようポジションの役割に触れてからおこなうようにする。			②	
広げる	5 本時	○ゲーム場面を想定したチーム練習に取り組む。 ・相手コートから来たボールのレシーブの仕方	・チーム練習に取り組む前には、ゲームの場面状況に応じた具体的な動き方や動きの大切なポイントを考えられる場を設けるようにする。		②		
	6 7	・攻撃につなげるためのセットアップの仕方 ・相手コートへのボールの返し方とボールが返って来る際の準備の仕方 ○ラリーゲームに取り組む。	・チーム練習では、各時間のめあての解決につながる練習方法を提示するとともに、積極的な支援をおこなうようにする。 ・ラリーゲームでは、よい動きができていない生徒を積極的に賞賛し、練習の成果を実感できるようにする。		③ ②		
	8	○前3時間の場面設定を踏まえたチーム練習に取り組む。 ○ラリーゲームに取り組む。	・チームの課題を見付けられる場を設け、次時からのチームの課題に応じた練習につなげられるようにする。その際、話合いに教師も参加し、チームの課題が明確になるようにする。		①		
まとめる	9	○チームの課題を解決するためのチーム練習に取り組む。	・チーム練習では、これまで取り組んで来た練習方法を振り返られるようにし、課題に応じた練習方法を選択できるようにする。		④		
	10	○まとめのリーグ戦に取り組む	・リーグ戦では、チームの課題を克服しようとしている動きをみとり、積極的に賞賛していくようにする。			②	
	11			①			
	12		・仲間と協力しながらバレーボールを楽しんでいることを賞賛していく。	② ③			

VI 指導方針

【単元全体を通して】

- 一単位時間のねらいを焦点化し、めあてや振り返り、活動内容、評価項目を明確にした単元を構想していくことで、生徒にとって分かりやすく、充実感をもてるようにしていく。
- 学習のめあてについては、前時の振り返りや感想等を基に設定していくようにすることで、主体的な学習となるよう配慮していく。
- ゲームは、バドミントンコートを用いておこなう。1チームを4名でローテーションしながらゲームを進めるが1名をコート外に置き、3人対3人のゲームとなるようにする。プレーヤーを3人とすることにより、三段攻撃につなげやすくしたり、コート外の1人をアドバイザーとして活躍できるようにしたりする。
- ゲームのないチームには、審判や得点付けの役割に付くよう指示し、ルールの定着につなげるとともに、審判法も身に付けられるようにする。審判法については、交代でおこなうよう指示していく。
- ボールについては軽量でパスをする際に痛みの少ない物（ミカサ：レッスンバレーボール4号）を使用し、バレーボールの経験の少ない生徒への負担を軽減していく。
- ネットの高さについては、ソフトバレーボールの支柱を利用し、生徒の実態に合わせられるようにする。また、単元の途中でも、生徒の実態に応じてネットの高さを柔軟に変えるようにする。
- コートの大きさやボール、ゲームの進め方は単元を通して統一し、生徒が見通しをもって学習できるようにするとともに、一人一人の活動量を確保していけるようにする。
- 準備や片付け、ウォーミングアップを効率よく行えるようにする。また、ウォーミングアップについては、主運動や授業のねらいにつながるよう、学習進度に応じてドリル練習の内容を工夫していくようにする。
- チームでの話し合いを重視し、お互いに助言しあえる場を設定する。その際、友達の動きのよさや考え方のよさを話し合うよう助言していく。

【「つかむ」過程：学習への見通しをもつ。】

- バレーボールへの関心を高めたり、学習への見通しをもったりできるよう単元の導入においてオリエンテーションをおこなう。オリエンテーションをおこなう際には、バレーボールの日本代表チームの試合VTRを視聴させ、バレーボールの用語や基本的なルールを押さえるとともに、本単元でめざす姿等についてのイメージをもてるようにする。

【「ひろげる」過程：基本的な技能を身に付ける。三段攻撃につなげる。】

- 「ひろげる」過程前半の活動①では、基礎技能を身に付けられるようにする。その際、腕や膝の使い方を重点に、図示したり、生徒のよい動きを確認したりして、動きの大切なポイントをつかめるようにし、段階的に技能が高まるようにする。また、ボールを扱う位置に応じたよりよいパスの仕方についても扱うようにする。
- 「ひろげる」過程前半の活動②では、パスゲームに取り組みさせる。その際、活動①で学習した技能を活用できるよう3回以上のパスをつないでもよいことや相手のコートにはパスで返すなどのルールの工夫をしていく。また、三段攻撃につなげていくため、レシーバーやセッター、アタッカーの役割や具体的な動きについても示していくようにする。
- 「ひろげる」過程後半の活動①では、各時間ごとにゲームの具体的な場面を作戦版を用いて提示し、パスの仕方や動き方について考える場を設け、動きの大切なポイントがわかるようにする。そして、チーム練習の中で動きに結び付けられていることをみとり、積極的に賞賛していくようにする。
- 「ひろげる」過程後半の活動②ではラリーゲームに取り組みさせる。その際活動①で学習したことが表れている場面をとらえ、具体的に賞賛していくことで、練習の成果を実感できるようにしていく。
- 「ひろげる」過程の最後の時間には、それまでの3時間を通して学習したことを基に、チームの課題を見付けられるようにする場を設ける。その際、教師も積極的に話合いに加わるようにして、課題が明確になるようにする。その際、チームの課題については、三段攻撃につなげるための技能や動き方に焦点が当たるよう配慮していく。

【「まとめる」過程：学習したことを基にバレーボールを楽しむ】

- 「まとめる」過程の活動①では、チームの課題を克服するための練習に取り組みさせる。その際、前時の振り返りからチームの課題を検討するよう伝え、それぞれの時間の課題が明確になるようにするとともに、課題解決的な学習となるよう配慮していく。チーム練習をしている際には、練習方法を複数示し、課題にあった練習方法を選択できるようにする。
- 「まとめる」過程の活動②では、アンダーハンドサービスを取り入れたラリーゲームに取り組みさせる。サービスについては、攻撃の起点になることが本単元での目的ではないことを伝え、相手のコートに柔らかいボールを入れるよう指示していく。ゲーム中に課題を克服しようとする動きやアドバイスをしていることをみとり、具体的に賞賛していくようにする。また、チームで協力しながらカバーし合ってバレーボールを楽しんでいることを積極的に賞賛していくようにする。

Ⅶ 本時の展開（5／12時間）

1 ねらい

相手ボールからのレシーブを中心に、三段攻撃につながる動き方を考えることを通して、ボールの扱い方やボールを持たない時の動きをとらえ、ラリーゲームを楽しむ。

2 準備

バドミントン支柱（6セット：12本）、多目的支柱補助金具（6セット：12本）

レッスンバレーボール、得点板、タイマー、作戦板

3 展開

過程	学習活動と生徒の意識	時間	指導上の留意点	評価項目（方法）
導入	<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ長くパスが続くように協力してがんばろう。 ・仲間が返しやすいパスを出そう。 ・腕を振りすぎないで、膝を柔らかく使おう。 <p style="text-align: center;">〈ドリル練習〉</p> <p style="text-align: center;">円陣パス、対人パス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日からラリーゲームをするのだな。本当のバレーボールに近いゲームで楽しそうだな。 ・レシーブをセッターに返せばよいだろうな。 ・セッターがセットアップしやすいレシーブを心掛けるとよいだろうな。 	10分	<ul style="list-style-type: none"> ○準備運動はグループごとにおこなうよう指示し、ドリル練習にスムーズに移行できるようにする。 ○ドリル練習の意欲付けになるよう一定時間にパスがつながった回数を数えるよう促す。 ○個々の状況をみとり、意図通りのパスができるようアドバイスしていく。 ○あいさつの後、本時からラリーゲームをおこなうことを提案し、大まかなルールや行い方を確認していく。 ○ラリーゲームでは、三段攻撃をめざしていくことを伝え、三段攻撃を成功させるにはどうすればよいかを問いかけることで、めあてをつかめるようにする。 	
めあて：三段攻撃を成功させるポイントを見つけて、ラリーゲームを楽しもう。				
活動①	<p>2 チーム練習に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レシーブは、できるだけ素早くボールの正面に移動してするとよいな。 ・腰を低くして構えておくとよさそうだな ・セッターはレシーバーの方に体を向けることが大切だろうな。 ・レシーブを失敗したら、3回で返せるよう、2人でカバーするとよいな。 ・アンダーハンドパスの仕方を思い出しながら丁寧 	15分	<ul style="list-style-type: none"> ○相手からのボールをレシーブをする場面を中心に、三段攻撃を成功させるためのボールの扱い方やボールを持たない時の動きを考えられるようにする。 ○作戦板を用いたり、実際のコートを使用したりして、具体的にレシーブの仕方や動き方をつかめるようにする。その際、生徒の考えを板書し、いつでも振り返られるようにする。 ○すべてのチームが十分に練習できるよう、コートの手前を利用して取り組むよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボールの扱い方やボールを持たないときの自己の動き方がわかる。 ◎ボールの扱い方やボールを持たないときの自分や仲間の効果的な動き方がわかる。 <p>【発言内容】</p> <p>【ワークシートへの書き込み〔事後〕】</p>

	<p>にパスしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セッターの額のあたりにパスを返せるとよいな。 ・レーシーバーの方に体を向けているとトスが上げやすいな。 ・相手からのボールがコートの前の方に来たら、セッターがレーシーバーになってカバーし合うとよいな。 ・レシーブをミスしても2人でカバーしたら3回で返せたぞ。 ・工夫してやってみたことが先生に認められてうれしいな。 		<ul style="list-style-type: none"> ○練習の方法については、仲間の一人がネットをはさんでボールを投げ入れてからスタートする方法を提案し、三段攻撃に焦点化した練習に取り組めるようにする。 ○チームの4人がローテーションしながら繰り返し練習に取り組めるようにし、多様な場面状況を経験できるようにする。 ○生徒の取組の状況をみとり、めあての達成のための方法を考えさせたり、具体的にアドバイスしたりする。 ○よりよい動きを認め、積極的に賞賛していくことで、自信をもって取り組めるようにする。 	
活動②	<p>3 ラリーゲームに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生が教えてくれた他の班の動き方は確かによさそうだな。ゲームの中でやってみよう。 ・チームで練習した三段攻撃ができたぞ。練習の成果が出てうれしいな。 ・アドバイザーになったら、たくさん声を出して仲間を助けていこう。 ・アタックが決まるととてもうれしいな。アタックができるように、チーム練習をしていきたいな。 ・トスがもっとよくなるとアタックがしやすくなるな。 	20分	<ul style="list-style-type: none"> ○ラリーゲームの前に、チーム練習で見られたよい動き等を紹介し、全体で共有していくようにする。 ○試合順や審判等の役割については教師が提示し、スムーズに進行できるようにして、ゲームに取り組む時間を確保していく。 ○ゲームはバドミントンコートを使用して3人対3人でおこなう。プレーヤーを3人とすることにより、三段攻撃につなげやすくしたり、コート外の1人をアドバイザーとして活躍できるようにしたりする。 ○ゲームの中での生徒のよい動きを積極的にみとり賞賛していくことで、チーム練習の成果を実感できるようにする。 	
まとめ	<p>4 本時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レシーブがセッターにきちんと返るようになったら、三段攻撃ができるようになった。 ・レシーブの時もセットアップするときも、ボールの方に体を向けておくとよいことがわかった。 ・セットアップがもっとうまくなるとアタックができるようになるので、次はセットアップの練習をしていきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートに本時の振り返りを記入するよう促す。記述の際には、本時のめあてについて考えたことや考えたことを基にできたことに視点を当てて振り返られるようワークシートや問いかけを工夫していく。 ○記述の内容をみとり、次時のめあてにつながる内容について発言を求めていくようにする。 ○めあてに対して、よりよい方法を考えられたことや、取組のよさを具体的に賞賛することで、次時への意欲付けとしていく。 	

VIII まとめ

1. 授業づくりにあたって（授業構想）

バレーボールの授業を構想するときに以下の3点を考えた。

- ①ボールを落とさないように仲間と協力できるチームをつくること
- ②自チームで3回の触球を有効に使い攻撃に移せること
- ③できるだけたくさんボールに触れること

①は、「排球」と表記するように、バレーボールは自分達のコートにボールを落とさないようにするためには、チームで声を出したり、仲間を信じたり、次の動きを予測したりする。それを繰り返しながら、技能の向上とチームゲームの面白さ、良好な人間関係づくりにつながると考えた。

②は、ネット型の球技は、ダイレクトに相手コートへボールを返すものが多いが、バレーボールは相手チームに邪魔されることなく、自分達で攻撃を組み立てることができる特性を生かしたいと考えた。チームの中の役割や状況に応じた動き方を身につけることで、チームの一員であるという連帯感や自分のやるべきことをしっかりと行う責任感が高まると考えた。さらに、仲間やボールの状況から、数秒先を考え、判断できるようになることを期待した。

③できるだけ少ない人数でチームを組むことで、ボールに関わる回数を増やし、基礎技能の向上を目指した。おおむね満足できる技能を習得することで、ある程度思った場所・高さにボールを送ることができ、チーム力の向上につながると考えた。

事前アンケートには、バレーボールへの抵抗感を持つ生徒もいたため、単元が終わったときに「またやりたい。」と思い、バレーボールの奥深さを感じられる計画を立てようとした。

2. 授業研究会より（○よかった点 ●課題や改善点）

(1) 指導者の生徒へのかかわり方

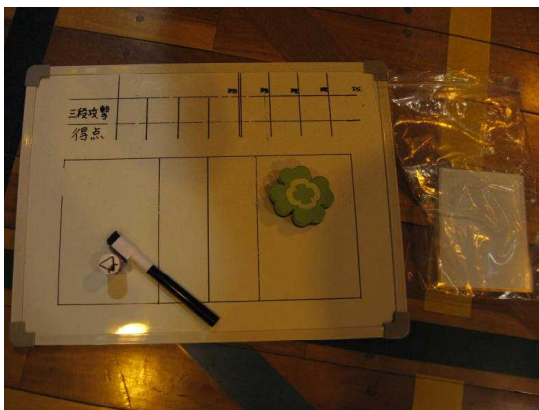
- チームごとに行うウォーミングアップや学習の場などの学習規律がよくできていた。
- 「ナイス！」や「OK！」などの前向きな言葉かけが仲間同士であった。
- 個の能力に応じた技能的な部分をきめ細かく指導していた。
- チーム内の声の出し方をもっと指示して意識させる。
- 人数不足のグループがあっても教師が全体を見られるように工夫した方がいい。



グループごとのウォーミングアップ

(2) 教材化の工夫

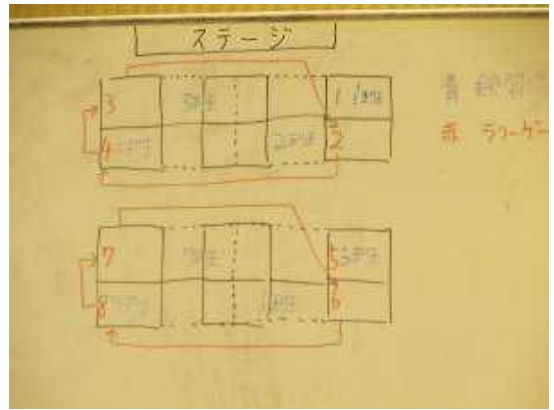
- バドミントンのコートを利用して、学習の場を8つ作り、グループごとに場があった。
- 軽いレッスンバレーボールで練習しやすかった。
- デジタルタイマーを使って時間制限での試合がよかった。
- 班ごとの作戦版が効果的に使用されていた。
- 軽量のボールの利用を導入としてはよいが、その後公式ボールにどうつなげるかについては課題が残るだろう。
- バレーボールの特性を失わずに、技能を高めどんなゲームにするか。3段攻撃にとらわれず、1・2回で返球することもあると伝えておく。



各班に渡した作戦版

(3) 課題設定・見通しの持たせ方

- 生徒に説明する際に図を使っているののでわかりやすく、生徒がスムーズに活動していた。
- ボールを持たないときの動きの場面を想定して伝えていたのでわかりやすくなった。
- 3段攻撃につながるタスクゲームを取り入れていてよかった。
- ポジションなどの役割を決めた方がいい。
- サーブの仕方によらつきがあったので、しっかりと指示をした方がよかった。
- 3段攻撃をどのようにしたらよいかをもっと生徒に考えさせた方がよかった。
- 3人が横並びになっていたので、基本のポジションを確認しておくとうよかった。
- いい動きや声を出しているチームを他のチームに見せた方がよかった。



ラリーゲームの見通しを持たせる図

(4) 発問・板書

- 教師の発問に対して、生徒がしっかりと考えていた。
- 生徒とのやりとりで、ねらいの達成につながる発言が出たら板書して残せるとよい。

(5) 自己評価・相互評価

- 4人チームのうちゲームをしていない得点係が指示をしていてよかった。
- 自己判断として、何ができたのかジャッジの規準があった方がよい。

(6) 指導計画・指導内容

- 3対3の少人数でゲームすることで、全員が動く意識が持てた。
- 3段攻撃を目指すので、3人グループは役割が明確になりゲームをしやすい。
- 様々なところにボールがとんでくる中で、もっと多くのパターンを紹介した方がいいのではないか。
- 作戦タイムの時間をもう少し確保した方が運動の質を高められるのではないかと。
- 1年生では「3段攻撃」よりも「ラリーの楽しさ」を重視してもよいのではないかと。



3人グループで3段攻撃を目指す

(7) 生徒の取り組み

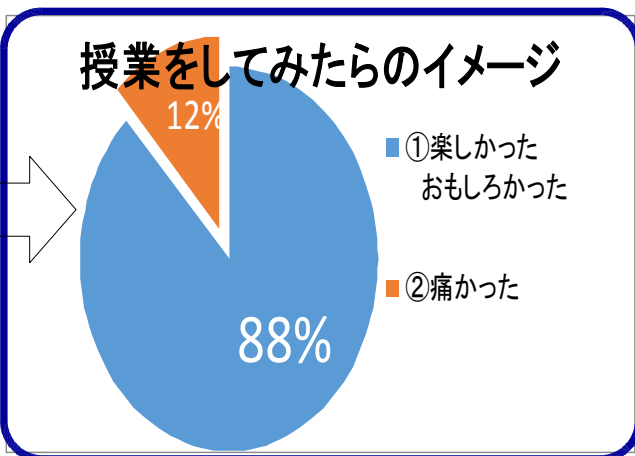
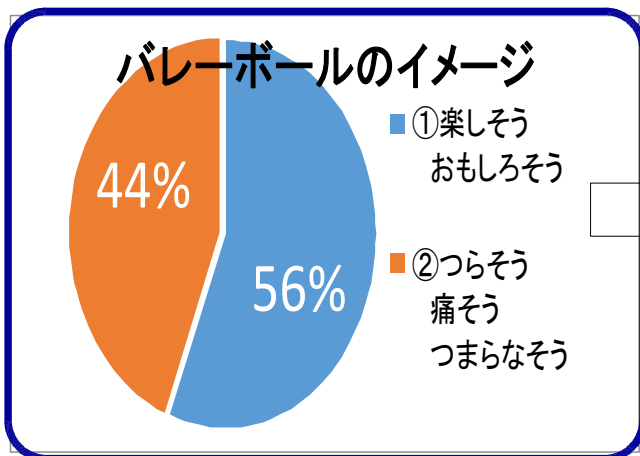
- 準備運動からよく動き、楽しそうであった。
- ムダなおしゃべりもせず、グループごとに進められていた。
- チームごとに自主的にランニングから対人パスとスムーズに進めていた。
- ボールを持たないときの体の向きを生徒自身が考えていた。
- 生徒たちがお互いにアドバイスをしている姿が見られた。



グループごとに行うランニング

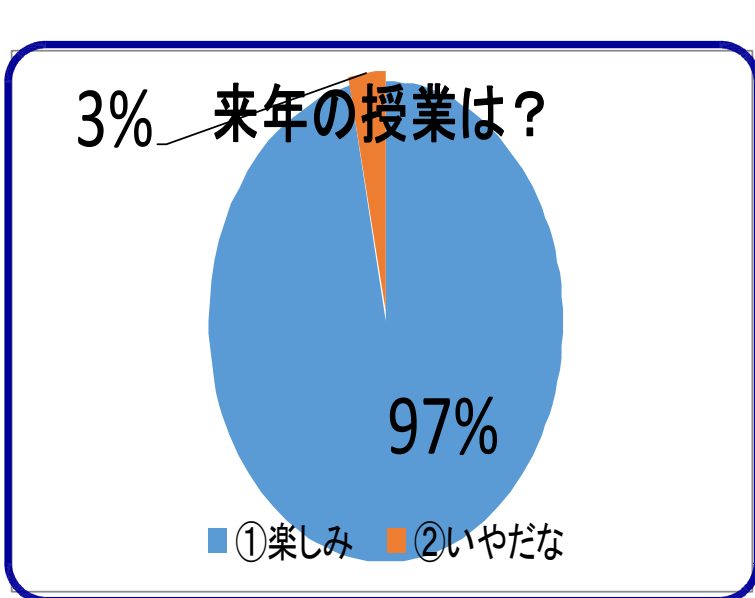
3. 生徒の変容
事前アンケート

事後アンケート



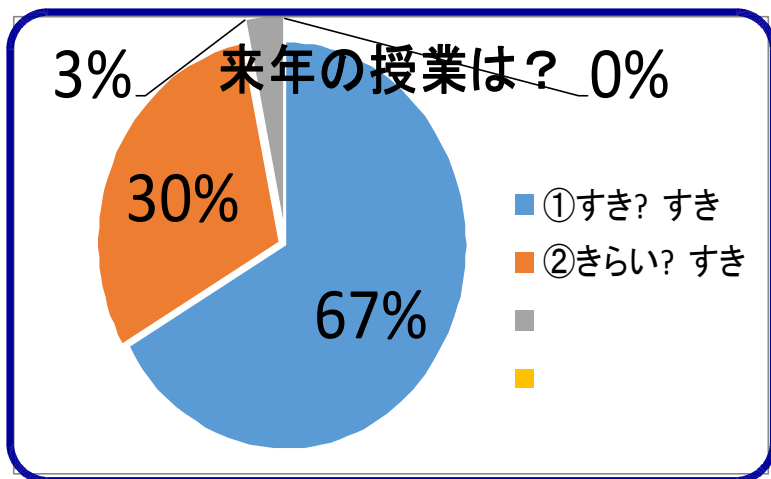
【事前アンケート】	【事後アンケート】
「バレーボールについてのイメージ」 好意的 (楽しそう、おもしろそう) 14人 (56%)	「バレーボールの授業をしてみたら」 好意的 (楽しかった、おもしろかった) 29人 (88%)
悲観的 (つらそう、痛そう、つまらなそう) 11人 (44%)	痛かった 4人 (12%)

【アンケート結果より】
実際に授業を行うことで、バレーボールの楽しさや面白さを感じているようだった。実際に授業でバレーボールを行い、「思った以上に楽しかった。」と感想を書いている生徒がいた。
しかし、ボールが軽く、ソフトな感触であっても、パスをするときに痛さを感じている生徒もいた。特に、アンダーハンドパスの時にポイントを押さえた場所に当てられずに痛さを感じていたようである。痛さを和らげるためにも、基礎的な技能をしっかりと身につけさせることが必要であることを改めて感じる事ができた。



【事後アンケート】
「来年のバレーボールの授業は？」 楽しみ・・・29人 (97%) いやだな・・・1人 (3%)

【アンケート結果より】
バレーボールの授業をして「痛かった」と答えた生徒も来年度のバレーボールを楽しみにしていると回答した。
「いやだな」と回答した生徒は、理由として公式ボールに対する不安をあげていた。軽量のバレーボールの長所が短所になってしまった。



【事後アンケート】

「バレーボールの授業をして」

「好き→好き」

20人 (67%)

「きらい→好き」

9人 (30%)

「きらい→きらい」

1人 (3%)

「好き→きらい」

0人 (0%)

【アンケート結果より】

授業の前後でバレーボールを「好き」のままだった生徒は、その理由として「やっぱりおもしろかった。」「ボールが痛くなかったからもっと楽しかった。」というものであった。生徒が期待していたバレーボールの楽しさを味わわせることができたように思う。

「きらい」から「好き」となった生徒が9人いた。その理由として、「チームワーク」をあげている生徒が多かった。声を掛け合い、パスをつなぐことで、バレーボールの楽しさを感じているようであった。自分のプレーでチームが盛り上がり、ミスをしたとしても仲間からフォローされたことがバレーボールのよい印象につながったように思う。

「きらい」のままだった生徒は、「自分のプレーでチームに迷惑をかけてしまった。」という理由であった。基礎的な技能を身につけることで、さらにバレーボールを楽しめ、チームワークのよさを体験できる生徒がいることがわかった。

【事後アンケート】

来年度のバレーボールの授業を楽しみにしている生徒を対象に、「来年度のバレーボールの授業でやってみたいこと」を質問すると、「スパイク」「サーブ」「ブロック」という回答があった。なかには、「ボールを強く打ってみたい。」というものもあった。

具体的な目標を見つけることができたため、来年度も意欲的に取り組めると思われる。

【考察】

多くの生徒が意欲的にバレーボールに取り組んでいた。4人組のチームだったため、集中してゲームに取り組んでいた。その結果、技能面で心配な生徒にとっては不安な気持ちのままゲームをしていた。個に応じて基礎的な技能を定着させる取り組みを充実させることで、生徒の意欲を高められる。

事前アンケートで「痛そう」というものがあり、軽量のレッスンバレーボールを使用した。そのことが、ボールへの恐怖心を取り除くことができていた。ただ、慣れてしまったため、公式ボールへの不安感を持っている生徒もいた。また、公式ボールでは反発力が変わるため、今年度身につけた技能を上手く調整できるようにしていきたい。

来年度の授業を楽しみにしている生徒が多く、今年度できなかったことへチャレンジしようとする意欲が見られる。新しい技能を習得することで、ゲームの幅が広がり、チーム内の役割を果たそうとする意欲につなげていきたい。コート大きさやネットの高さなどを工夫し、今年度からの積み重ねができるようにしていきたい。

4. 授業後の生徒の感想など

チームについて

○最初は、全然3段攻撃がきまらなかったけど、だんだん決まる数も増えてきてすごく楽しくなってきた。

○チームのみんなで楽しくできたので良かったです。

○仲間とボールを落とさないように団結し合ったり、相手からポイントをとるために必死で相手コートにボールを落とそうとして、ラリーが続くのはすごくうれしく楽しかったです。

○ボールは下手な人も一緒にゲームをして、勝てたので良かったです。何試合かして、全部は勝てなかったけれどほとんど勝てて、チームの人と仲良くなったので良かったです。

技能面について

○はじめ、手で打ったときは痛かったが、慣れると痛くないところに当たるようになり、試合もやりがいのある試合もあったので楽しかった。また来年もこのくらい楽しめたらいいなと思った。

○レシーブなどをして手が痛くなったけど、試合で使えてとてもうれしかった。また、点をとることができてよかった。楽しかった。

○バレーボールは、ボールが変なところに当たると痛かったけど、ボールを変えてやったら、痛くなかったので好きになりました。またやりたいです。

○バレーボールはトスがうまいかなくて大変だったけど、だんだん落とさないようにできたので良かったです。また、来年もバレーボールをやるのが楽しみです。

○最初はアンダーハンドパス、オーバーハンドパスなどが全然できなかったけど、授業をやって、だんだんとできるようになっていき、ゲームが楽しめるまでになってうれしかったです。2年生の授業でもっと上手になりたいと思いました。

○トスなどができるようになってうれしかったです。

用具について

○やわらかいボールでやってよかった。

○来年はかたいボールでやらされると思うから、いやです。つまらなくはないので、来年を楽しいと思える授業にしてください。

授業について

○バレーボールの授業をやってみて、最初は地味なスポーツと思っていたのが、意外と頭を使うスポーツだったんだなと思いました。来年のバレーボールがとても楽しみです。

5. 成果と課題

〈成果〉

【関心・意欲・態度】

- ・アンケート結果から、生徒がバレーボールを楽しみながら授業に取り組めたことが実感できた。来年度のバレーボールの授業への意欲につながっていると思う。
- ・ボールを落とさないように声を出したり、仲間のミスチームでカバーしたりとバレーボールの特性である仲間と連携してゲームを進めていた。誰とどんなチームを作っても、チームワークよくゲームを進められると思う。

【思考・判断】

- ・次のプレーを予測して、動いたり構えたりしている姿が見られ、プレー中も考えながらバレーボールをすることができた。今、やるべきことを一瞬で判断し続けられるようにしていきたい。
- ・少人数のチームで練習を積み重ねていったため、3回で相手コートに返す事に慣れることができた。そして、どこにボールを送ると次のプレイにつながるかを考えている生徒が増えた。

【技能】

- ・ある程度自分の思い通りにボールを送る技能を身につけられたため、来年度につながる基礎ができた。
- ・軽量のレッスンバレーボールを使用する事で、強い返球や落ちそうになったボールにも怖がらずにプレーを続けていた。ドリル練習にも進んで取り組み、対人パスではよくボールが動かたくさん練習をすることができた。
- ・8面の学習の場を設定することで、チーム練習やタスクゲームを運動量を減らすことなく、実施することができた。

【知識・理解】

- ・学習カードにバレーボールの基礎用語を掲載していたため、生徒が教師の指示をよく理解して取り組んでいた。図解体育を利用して、進んで用語を調べようとしていた。

〈課題〉

- ・教材や提示の方法に工夫の余地がある。大きさや掲示するタイミングなどを改善することで、生徒がやりやすい授業にすることができる。
- ・欠席や見学があったときにチーム練習をどのように行うか事前に考えておくことで、教師が全体を見ることができるようしておく。
- ・生徒の思考の力を伸ばす授業を行って行くには、生徒の考えを引き出し、ねらいに迫る発言を板書したり、補足したりすることが必要である。
- ・軽量のボールの利用方法を今後の指導計画を見据え、生徒が戸惑いなく公式ボールへ移行していけるように工夫する。
- ・バドミントンのコートで学習の場を多く設置したことで、準備片付けに時間がとられることがあった。8面の学習の場を有効に使えない授業内容の時には、減らすことも考えられる。

6. 授業の様子



チームメンバーが集まり次第、ランニング開始

しっかり体を温めよう！



体をほぐして次にいこう！



ランニングが終われば体操

今日のドリルは対人パス!



本時の予定とポイントの確認



チームでタスクゲーム

ナイスレシーブ!!





作戦版を見ながらアドバイス



反省を振り返り次の試合へ



試合が終わるたびに作戦会議

あのプレーよかったよね！



授業を振り返り次時へ

7. 学習カード



目標：

チームメイトと協力して、バレーボールを楽しもう！

約束

- A：ボールを転がしておかない。
- B：全員で協力して準備・片付けをする。
- C：バレーボールを足で扱わない。
- D：チームで声を出して、助け合う。
- E：チームメイトのよいところも見つけ合う。
- F：つめは短くしておく。

年 組 番 氏名

時間	自己チェック						できた						できなかった					
	A	B	C	D	E	F	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
	A: ボール B: 準備・片付け C: ボール(足) D: 声 E: よいところ F: つめ																	
	①: ボールの扱い ②: ボールへの執着心 ③: ボールへの集中力																	
	④: チームへの貢献度 ⑤: チームへのアドバイス ⑥: 審判																	
1	A	B	C	D	E	F							①	②	③	④	⑤	⑥
	()	()	()	()	()	()							()	()	()	()	()	()
2	A	B	C	D	E	F							①	②	③	④	⑤	⑥
	()	()	()	()	()	()							()	()	()	()	()	()
3	A	B	C	D	E	F							①	②	③	④	⑤	⑥
	()	()	()	()	()	()							()	()	()	()	()	()
4	A	B	C	D	E	F							①	②	③	④	⑤	⑥
	()	()	()	()	()	()							()	()	()	()	()	()
5	A	B	C	D	E	F							①	②	③	④	⑤	⑥
	()	()	()	()	()	()							()	()	()	()	()	()
6	A	B	C	D	E	F							①	②	③	④	⑤	⑥
	()	()	()	()	()	()							()	()	()	()	()	()
7	A	B	C	D	E	F							①	②	③	④	⑤	⑥
	()	()	()	()	()	()							()	()	()	()	()	()
8	A	B	C	D	E	F							①	②	③	④	⑤	⑥
	()	()	()	()	()	()							()	()	()	()	()	()
9	A	B	C	D	E	F							①	②	③	④	⑤	⑥
	()	()	()	()	()	()							()	()	()	()	()	()
10	A	B	C	D	E	F							①	②	③	④	⑤	⑥
	()	()	()	()	()	()							()	()	()	()	()	()
11	A	B	C	D	E	F							①	②	③	④	⑤	⑥
	()	()	()	()	()	()							()	()	()	()	()	()
12	A	B	C	D	E	F							①	②	③	④	⑤	⑥
	()	()	()	()	()	()							()	()	()	()	()	()

①: ボールをねらったところにパスしたり、打ったりした。(ボールの扱い)

②: ボールを追って、落とさないようにした。(ボールへの執着心)

③: ボールがきそうなところに動けた。(集中力)

④: チームのために、声を出してゲームに臨んだ。(貢献度)

⑤: チームがよくなるように、気づいたことをチームメイトに伝えた。(アドバイス)

⑥: スムーズに試合ができるように心がけて審判をした。(審判)

ふりかえろう

今日の授業をふりかえろう。次の事を中心に書いてみよう。

- 今日の授業をしているときに考えたこと
- 次の授業で挑戦したいと思ったこと
- 今の自分（あるいは自分のチーム）に必要なこと

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	

一人一人がチームの一員として力を発揮しよう！

バレーボールに必要な技能

()・・・低いボールをパスする

()・・・高いボールをパスする

()・・・ゲームを始めるために、相手コートにボールを打ち込むこと。
サーブとも言う。

※

()・・・ボールを相手コートに強く打ち込むこと。

バレーボールで出てくる言葉

()・・・相手コートからきたボールを受けること。

()・・・味方が打ちやすいようにボールをあげること。

()・・・得点が決まらず、ボールが自陣と敵陣を行ったり来たりすること。

()・・・サービス権が移るたびにポジションを移動すること。

()・・・相手からのボールをレシーブ⇒トス⇒アタックで攻撃すること。

技能のポイント（右利き用）

アンダーハンドパス

()をしっかりと伸ばし、()を曲げずにひざを伸ばしながらパスをする。体と両腕で()をつくる。

オーバーハンドパス

素早く落下地点に入り、()と()で台形を作り、額の前で構え、膝・肘・手首を使いボールを送る。

スパイク

上体をねじりながら、右腕を後ろに引き、左腕を前から後ろに引きながら()全体でボールをたたく。

アンダーハンドサービス

左手でボールを持ち、()を伸ばして、後ろに引き、右手を軽く握り手根の部分でボールを打つ。膝の前あたりで前に押し出すようにするとコースを狙いやすい。

構え方

体は()の来る方向を常に向いている。

バレーボールで身につく力

ボールに反応して素早く動く力・・・()

ボールを思ったところにパスする力・・・()

短い時間で大きく動く力・・・()

ボールを強く打ったり、高く跳んだりする力()

主なルール

得点・・・()に勝ったチームが1点と()を得る。

反則

①フォアヒット・・・返球のために()回ボールに触れる。

②()・・・ボールをつかむ。

③()・・・ネットに触れる。

※白帯より下のネットに触れても、相手の妨害にならなければ反則とされない。

④オーバーネット・・・相手コート内にあるボールにネットを越えて触れる。

⑤()・・・2回続けて同じ人がボールに触れる。

※チームで1回目は、同じ動作中であれば触れてもよい。

保健体育科学習指導案

平成26年11月20日(木) 第5校時
3年1・2組 男女 (於 校 庭) 指導者 清水清志

授業改善の視点

守備のドリルゲームやタスクゲームにおいて、練習場所の大きさ、形、ゴールの数やルールを工夫することにより、ボールを奪うために相手をマークしたり、空間をカバーする動きがわかり、ボールを奪う技能を生かした守備力を高めることができるであろう。

1 単元名 球 技 (ゴール型 : サッカー)

2 考 察

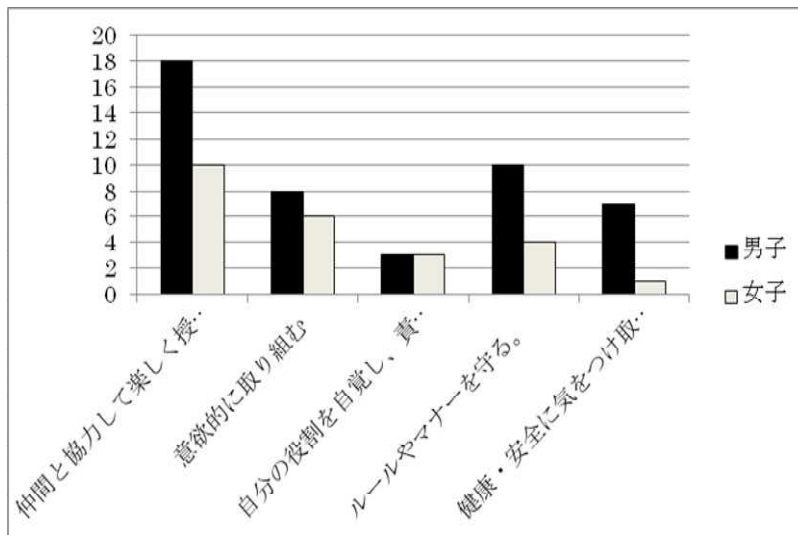
(1) 生徒の実態 (男子 24 名、女子 12 名 合計 36 名)

<運動や健康・安全への関心・意欲・態度>

3年1・2組の保健体育の授業は、全力で一生懸命取り組み学習する生徒が多い。

「サッカーの授業で大切に思う態度は何ですか？」下記の5項目の内2項目について回答を求めた。

- ① 仲間と協力して楽しく授業に取り組む。
- ② 意欲的に取り組む。
- ③ 自分の役割を自覚し、責任を果たす。
- ④ ルールやマナーを守る。
- ⑤ 健康・安全に気をつけ、取り組む



男女とも共通して高い回答があったのは、「仲間と協力して楽しく授業に取り組む」項目である。集団スポーツであり、仲間と協力し、授業に取り組もうとする考えがうかがえる。男子生徒では「ルールやマナーを守る」の項目の回答が多い。部活動に所属している生徒が多く、ルール・マナーの大切さを意識していることの表れだと考えられる。女子生徒の回答として多かったのは、「意欲的に取り組む」である。

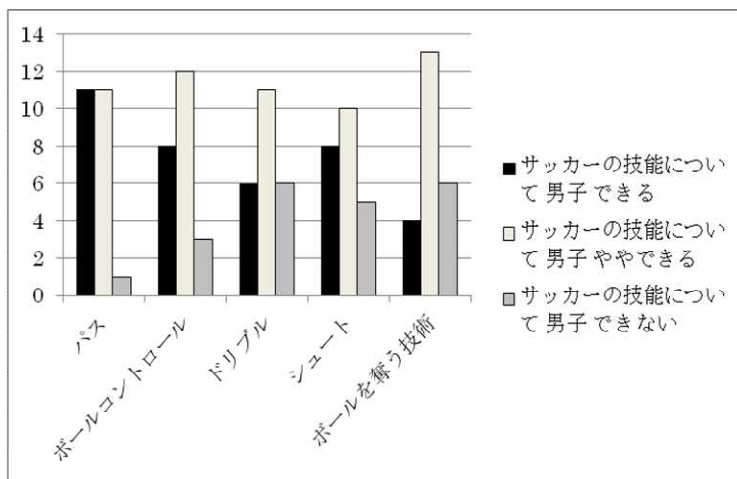
<運動や健康・安全への思考・判断>

運動の思考力や判断力については、生徒の学習カードを利用し、生徒自身が自己分析をするとともに、実技指導の中で生徒を観察し、教師が支援し、運動に活かすようにしている。授業開始時に、学習内容とのねらいを明確にし、学習カードに書き込んでいる。授業で気付いたこと、感じたこと、できたこと、できなかったこと、学んだことなどを自己分析し、考えたことなどを記述することができる。実技中での判断力については、教師からの声かけを中心に理解し、感じ、学習カードに記録し、まとめることができる。自分を分析することはできるが、自分のチームや他のチームを分析する力はまだ十分でないと考えられる。

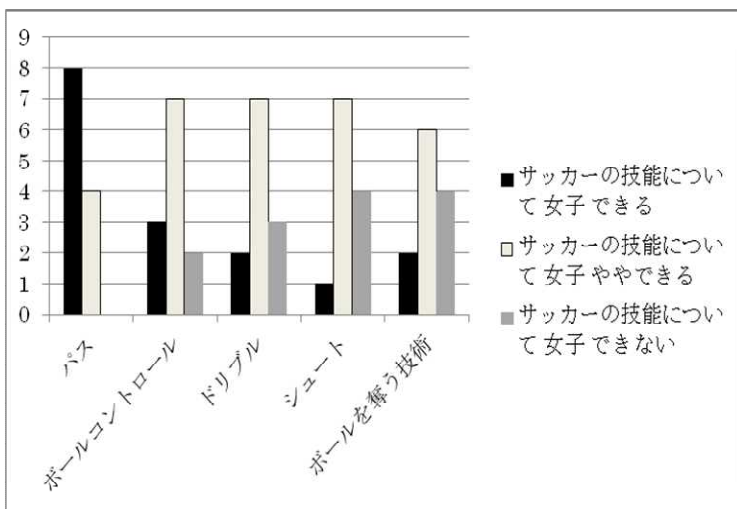
<運動の技能>

技能について下記の項目で「できる」「ややできる」「できない」の回答を求めた。

- ① ボールを蹴る技術（パス）
- ② ボールを止める技術（ボールコントロール）
- ③ ボールを運ぶ技術（ドリブル）
- ④ シュート
- ⑤ ボールを奪う技術

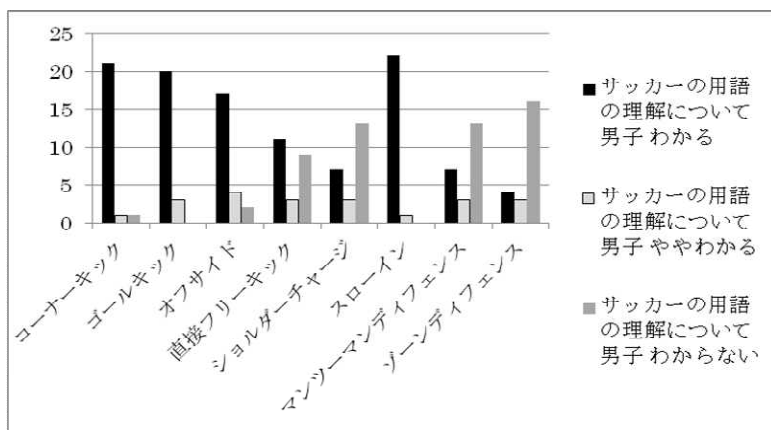


結果は、グラフのとおりである。男子については、パス、ボールコントロールやシュートなどの技能はできると回答している生徒は多く、ドリブルやボールを奪う技術について苦手意識を持っている生徒が多い。女子については、パスはできると回答している生徒が多く、シュートやボールを奪う技術に苦手意識のある生徒が多い。

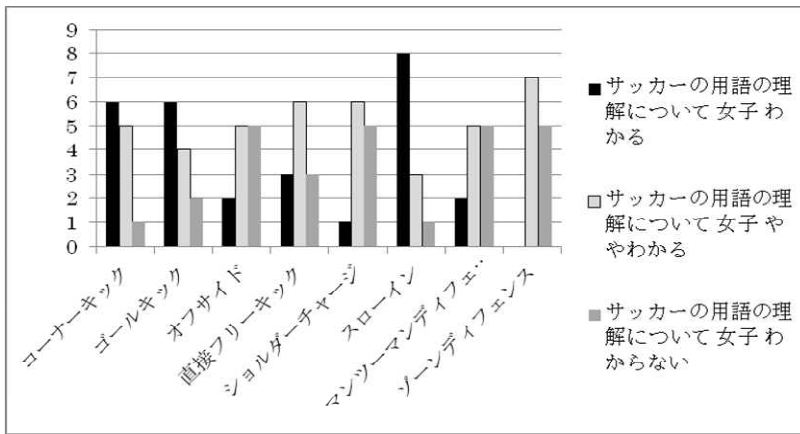


<運動や健康・安全についての知識・理解>

サッカーの用語についてどの程度理解しているか、回答を求めた。



サッカー用語を理解しておくことは、授業を効率よく進める上でも重要なファクターである。ルール関係の用語については、理解している用語と理解していない用語があるようだ。特に女子はルールを理解していない様子が見られるのでゲームを進める上で混乱することも予想される。守備に関する用語についての理解度が男女とも低くなっている。



またチーム戦術を高めていく今回の授業で気づかせ理解を深めさせることが重要であると考える。

(2) 教材観

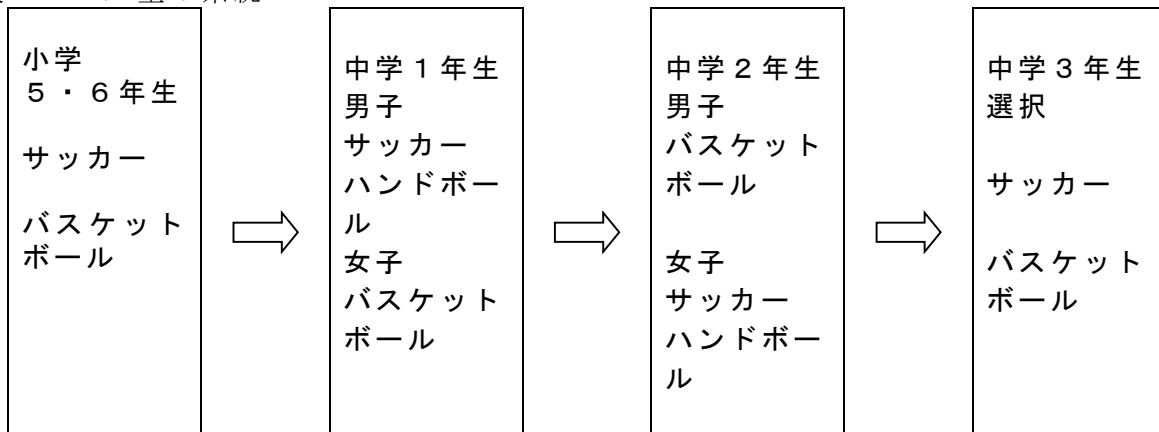
本単元は、中学校学習指導要領保健体育科における体育分野の内容「E 球技」のゴール型種目として分類することができる。サッカーは選手自らがどのようにプレーをするか、選択をするの自由があり、選手が状況に応じて判断し、持っている技能を発揮して得点を競い合うスポーツである。

基本的に手や腕でボールを扱うことができず、主に足を使ってボールをパスしたり、ドリブルなどを行ったりしながらゴールを目指し得点するために攻撃する。味方のゴールにボールを入れさせないよう、相手の動きに制限を加えたり、得点されてしまいそうな空間を守ったりするとともに、相手のボールを奪い再び攻撃をしていく守備力も求められている。

相手との接触も認められているので、安全に楽しくプレーするためには、ルールやマナーを守りフェアプレーの精神で競技を行うことが大切であり、仲間と協力し合い、相手を尊重する態度も学ぶことができる。

(3) 教材の系統性

球技 ゴール型の系統



3 目標

- (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームができるようにする。安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できるようにする。(技能)
- (2) 自主的に取り組むとともに、フェアなプレーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、健康・安全を確保することができるようにする。(態度)
- (3) 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(知識、思考・判断)

4 評価規準

運動への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ○サッカーの特性に関心をもち、楽しさや喜びが味わえるように進んで取り組もうとしている。 ○チームにおける自分の役割を自覚して、責任を果たしたり、教え合ったりして互いに協力しながら進んで練習やゲームをしようとしている。 ○フェアプレーを大切にし、ルールやマナーを守り、取り組むとともに、勝敗に対して公正な態度を取ろうとしている。 ○練習場の安全を確かめ、健康・安全に留意し練習やゲームをしようとしている。
運動についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ○自己やチームの課題を解決するために、練習の仕方やゲームのルールを工夫している。 ○自チームや相手の特性を明確にし、作戦を立てたりすることができる。
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ○チームや自分の能力に適した課題の練習やゲームを通して個人的技能・集団的スキルを高めることができる。 ○仲間と連携し、チームの作戦を活かした攻防を展開しゲームができる。
運動についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ○サッカーのルールを理解している。 ○技能の名称や行い方、練習のルールや方法を理解している。 ○チームの作戦やシステムを理解している。

5 指導方針

中学校でのサッカーの授業が2年目の学習となり、3年生では、選択制での取り組みになる。

- ICT機器を利用しながらサッカーの映像を見せることで、ドリルゲーム、タスクゲーム、メインゲームのイメージをとらえさせ、生徒に見通しを持って授業に臨めるようにさせる。
- 効率よく技能の習得を図るために、ドリルゲーム、タスクゲーム、メインゲームの練習方法やルールを明確にし、わかりやすくメニューを提示する。
- 生徒が安全で効果的に練習やゲームに取り組むことができるように、男女の体格や体力、技能の習熟度を考慮し、男女別のチーム編成を行う。
- 生徒一人一人がボールに触れる機会を増やしたり、ボールがない時でも空間を守ったりする機会を増やすために、メインゲームを含め8人制サッカーを導入する。
(教える過程)
- 展開場面を、個人の技能の習得を図るためのドリルゲーム中心で行う活動1と、基本的な戦術を身につけるためのタスクゲーム中心で行う活動2に分けて実施する。
- 技術的ポイントや戦術的ポイントについて、生徒にわかりやすい言葉を使い簡潔に提示することで、大切な事柄をしっかりと意識させられるよう支援する。
- 生徒の判断を大切にし、生徒の考えを引き出すような声かけを行う。
(考えさせる過程)
- サッカー用語を理解させることにより、学習活動を効果的に進められるようにする。
- 効果的に話し合い活動を取り入れ、自チームや相手チームの特性をチーム内で共有し、自チームの特性を活かした作戦をたてられるようにする。
(まとめる過程)
- サッカー学習カードを活用し、学習内容の定着状況を生徒自らが分析できるようにする。
- まとめの活動では、自分のめあてにそった振り返りを行い、できたことや頑張ったこと、気づいたことなどを学習カードにまとめさせる。

6 指導と評価の計画（10時間計画）「本時はその5時間目」

○単元計画

過程		つかむ	追 求 す る						ま と め る
時 間		1 時 間 目	2 時 間 目	3 時 間 目	4 時 間 目	5 時 間 目	6 ～ 7 時間目	8 ～ 9 時間目	1 0 時 間 目
学習内容	導入	10分	あいさつ・準備運動・学習のめあての確認						
	活動1	15分	ウォーミングアップのやり方を理解する。	パスやドリブルの技能を活かしたドリルゲーム（ボールを失わない）	シュートの技能を活かしたドリルゲーム	ボールを奪う技能を活かしたドリルゲーム	チームの課題に応じた練習方法を考え、練習を行う。	自チームの特性や対戦チームに応じた作戦を立てたタスクゲームを行う。	学習してきたことを活かして練習やゲームを行う。
	活動2	20分	試しのゲーム	パスやドリブルを活かしたタスクゲーム	ゴール前の攻防考えたタスクゲーム	グループでボールを奪うタスクゲーム	メインゲーム（5対5）～（8対8）		
	まとめ	5分	学習したことを振り返り、学習カードにまとめる。						

時間	ねらい	学習活動	支援および留意点	評価項目
1	○学習のねらい サッカーの特性を理解し、授業の流れや単元全体の学習内容について理解する。	オリエンテーション ○本時の流れや単元全体の学習内容及び、学習カードや資料の使い方について理解する。	○本時の流れや、単元全体の学習の流れが十分に理解できるよう、資料を掲示したり、板書等を行ったりしながら説明する。	◆サッカーの特性および単元全体の学習内容を理解している。（知識・理解）（カード）
2	○学習のねらい ・試しのゲームを通して、自己の課題を明確にし、単元全体の目標を立てる。	○本時の流れや学習内容を知る。 ○少人数によるゲームを行う。 4対4のゲームとする。 ○ラージゲームを行う。 男子 8対8 女子 6対6	○試しのゲーム前の説明で自己課題設定のヒントとなるポイントを例示し確認させゲームを行わせる。自己の技能、仲間の技能について課題を共有させる。	◆試しのゲームから自己の課題に気づき、解決までの見通しを持つことができる。（思考・判断）（カード）
3	○学習のねらい ・パスやドリブルの技能を活かした攻撃ができるようにする。 （ボールを失わないようにして攻撃をする。）	○パスやドリブルの技能を活かしたドリルゲームを行う。 ○パスやドリブルの技能を活かしたタスクゲームを行う。	○ベーシックなドリルゲームやタスクゲームを説明し、練習のやり方を理解させる。 ○グループでの練習は、リーダーを中心に主体的に練習を行わせ、巡視をしながら技能を発揮させるためのポイントを助言する。	◆パスやドリブルなどの技能をドリルゲームやタスクゲームで発揮することができる。（技能）（観察）

4	○学習のねらい ・シュートの技能を活かした攻撃ができるようにする。 (ゴールを奪う)	○シュートの技能を活かしたドリルゲームを行う。 ○シュートの技能を活かしたタスクゲームを行う。	○ベーシックなドリルゲームやタスクゲームを説明し、練習のやり方を理解させる。 ○グループでの練習は、リーダーを中心に主体的に練習を行わせ、巡視をしながら技能を発揮させるためのポイントを助言する	◆ドリルゲームやタスクゲームを通してシュートの技能を身につけ状況に応じてその技能を発揮することができる。 (技能) (観察)
5	○学習のねらい ・ボールを奪う技能を活かした守備ができるようにする。 (ゴールを守りながらボールを積極的に奪う守備ができるようにする。)	○ボールを奪う技能を活かしたドリルゲームを行う。 ○相手をマークしたり、空間をカバーする動きを使ってボールを奪う技能を活かしたタスクゲームを行う。	○ベーシックなドリルゲームやタスクゲームを説明し、練習のやり方を理解させる。 ○グループでの練習は、リーダーを中心に主体的に練習を行わせ、巡視をしながら技能を発揮させるポイントを助言する。	◆ドリルゲームやタスクゲームを通してボールを奪う技能を身につけ、その技能を発揮することができる(女子) (技能) (観察) ◆ドリルゲームやタスクゲームを通して相手をマークしたり、空間をカバーする動きを使って、ボールを奪う技能を身につけるとともに、その技能を発揮することができる(男子)(技能) (観察)
6 7	○学習のねらい ・チームの課題に応じた練習メニューを考えチームで協力して練習を行い、チーム力向上を目指す。	○チームの課題に応じたドリルゲームやタスクゲームを行う。 ○チーム課題を克服されているか確認するために、メインゲームを行う。	○前時までの授業で練習してきたドリルゲームやメインゲームなどを使ってチーム力向上に向け練習に取り組ませる。 ○チーム課題をミーティング等で明確にし、リーダーを中心に主体的に練習を行わせ、巡視をしながら技術や戦術ポイントを助言する。	◆自チームの特性や課題を考え、練習内容を考えることができる。 (知識、思考・判断) ◆自チームの課題を意識し、ドリルゲームやタスクゲームを行うことができる。 (技能) (観察)
8 9	○学習のねらい ・自チームの特性を活かし、対戦チームに応じた作戦を立てゲームを行うことができる。	○自チームの特性や対戦チームの特徴を理解し、作戦を立てる。 ○自チームの特性を活かしたタスクゲームを行う。 ○対戦チームに対応する作戦を活かしたタスクゲームを行う。 ○自チームの作戦を活かしゲームを行う。	○ミーティング等で対戦チームに対応する作戦を立てさせる。 ○自チームの特性を活かしたタスクゲームなどを使ってチーム力向上に向け練習を行わせる。	◆自チームの特性や相手チームの特徴を考え、作戦を立てることができる。 (知識、思考・判断) ◆作戦を意識し、習得した技能や戦術を活かしてメインゲームを行うことができる。 (技能) (記録・観察)
10	○学習のねらい ・自チームの特性を活かしたり、対戦チームに応じた作戦を立てリーグ戦を行い、勝敗を意識してゲームを行うことができる。	○自チームの特性や対戦チームの特徴を理解し、作戦を立てる。 ○自チームの特性を活かし、対戦チームに対応する作戦を活かしたタスクゲームを行う。 ○勝敗を意識し、リーグ戦を行う。	○ミーティング等で対戦チームに対応する作戦を立て、リーダーを中心に主体的にゲームに参加させる。	◆勝敗を意識しゲームを行うとともに審判の判定については、公正な態度で取り組み、仲間と協力して楽しくゲームを行うことできる。(関心・意欲・態度)

7 本時の学習（5時間目）

1 ねらい

- ボールを奪う技能を身につけ、守備ができるようにする。相手の動きに対して、相手をマークして守る動きと所定の空間をカバーして守る動きをし、相手の攻撃を防ぐ方法を身につけるようにする。（技能）

2 校内研修との関わり

- サッカー用語などを理解させ、ドリルゲームやタスクゲームが効率よく効果的に練習が進められ技能の獲得につなげられるように、発問を含めた生徒への声かけを工夫し技能の習得につなげられるようにする。
- 学習のまとめで、授業中展開された用語などを使って課題解決、課題確認がされているか発表させたり、学習カードを観察したりすることで理解度の確認をしていく。

3 準備

<生徒> 筆記用具 学習カード サッカー学習ハンドブック

<教師> 大ゴール2組、小ゴール4組、マーカーコーン、ボール、ビブス

4 展開

学 習 活 動	時間	支援及び留意点・評価の観点
1 集合、あいさつ、 出欠確認、健康観察 本時の学習のねらい 授業の流れの確認 2 準備運動 (チームごとに体操)	導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の授業のねらいと流れについて理解することができるように、ハンドブックを使って説明する。 ○チームの自主的な活動を促すように、リーダーを中心に準備運動・ボールを使ったウォーミングアップを行うよう指示をする。
3 活動1 ボールを奪う技能を身につけるドリルゲーム ① 1対1ドリルゲーム ② 2対2ドリルゲーム (女子のドリルゲームは、①のみとする)	展開 ① 15分	<ul style="list-style-type: none"> ○全生徒がグループ別の練習を効率よく行うことができるように、一斉指導でドリルゲームの仕方とボールを奪うポイントを確認する。 ○ボールの奪い方を理解することができるように、サッカー部の選手と教師で模範演技を行う。(ドリルゲーム①) ○相手のボールを奪う守備の方法と空間をカバーする動きについて理解することができるように、サッカー部の生徒と教師で模範演技を行う。(ドリルゲーム②) ○チーム別のドリルゲームにおいて、自己の課題に対して解決を図れるように巡視しながら助言する。 ○女子については、技能の習得状況に応じて課題やドリルゲームの方法を修正する。

<p>4 活動2 ボールを奪う技能を生かしたタスクゲーム</p> <p>③ 3対3 + GK</p> <p>(女子については、ドリルゲームの②をタスクゲームとして行う)</p>	<p>展開 ②</p> <p>20分</p>	<p>○全生徒がグループ別の練習を効率よく行うために、一斉指導でタスクゲームの仕方とグループでボールを奪うポイントを確認する。</p> <p>★タスクゲームを通して相手のボールを奪う守備の方法と空間をカバーして守る動きを身につけ相手の攻撃を防ぐことができる。(技能) (観察)</p>
<p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のまとめを、学習カードに記入する。 ・できたこと、学んだこと気づいたことを発表する。 ・練習場所の後片付けをする。 	<p>まとめ</p> <p>5分</p>	<p>○活動を振り返り、自分はどんなボールの奪い方ができたか考えてまとめるよう指示をする。</p> <p>○学習カードに記入した内容を発表することで自己のまとめを確認できるようにするとともに、仲間の発表を聞くことで学習した内容を整理することができるようにする。</p>

まとめ

1 授業づくりにあたって（授業構想）

サッカーの授業を構想するにあたり、次の3項目を重点とした。

- ①サッカーの授業を実施するときの参考資料となるマニュアルを作成すること。
- ②指導の仕方、指導ポイントなど先生方のヒントになる学習内容を提示すること。
（マニュアルを活用した授業実践例の提示）
- ③サッカーの授業での用具や場の工夫を通して、保健体育科の授業における有効的な用具の活用や場の工夫を提案すること。
 - ①については、はばたく群馬の指導プランの「単元の作り方」をもとにし、「ドリルゲーム」では技能的な内容の習得を「タスクゲーム」では戦術的な内容の習得をねらいとした指導計画の立案とともに、効果的な授業実践に向けてのマニュアル（サッカーハンドブック）の作成に着手した。
 - ②については、生徒に身につけさせたい力を習得させるための手立てとして、マニュアル（サッカーハンドブック）を活用した授業実践を提示することで、マニュアル（サッカーハンドブック）に示された練習方法の意図や実施の仕方を理解したり、活動場面での発問や指導ポイントの伝え方などを実感したりできるような授業づくりを目指した。
 - ③については、保健体育の授業では施設・用具などが必要不可欠であるが、安全で効率よく用具を活用することが生徒の運動量確保につながると考え、効果的な用具の活用方法や場の工夫の仕方を提案することとした。

2 授業研究会より

（1）場の工夫について（サッカー授業ハンドブックも含む）

<良かった点>

- コートがちょうど良かった。（特に女子）
- マーカーで色分けをすることで、ボールを集める場所やドリルを行う範囲を示してわかりやすかった。
- 展開に合わせて使い方をかえられてスムーズに進んでいた。
- マーカーによって練習場所がチームごとに確保できた。
- 塩ビパイプのゴールを使ったこと。
- ゴールやポイントがたくさんあり、練習場所が確保できていた。
- 白線ではなくマーカーという活用が参考になった。
- ハンドブックは活動の内容や方法が目で見えてわかりやすかった。項目ごとに書かれており、サッカーに必要な技術がよくわかった。
- ハンドブックに専門的なことから基本的なことまで幅広く載っていて良かった。

<気になった点>

- マーカーの色がもっとカラフルだとよりわかりやすいと思った。
- 男女のコートの広さは意図的か？
- ハンドブックの活用について、チーム1冊でなく全員に1冊ずつ持たせてはどうか？
- マーカーは風で飛ばないか？

（2）教師の支援について（発問・ポイントの伝え方等）

<良かった点>

- 説明の仕方が良かった。生徒を使いながらわかりやすい言葉で行っていた。
- 生徒に気づかせる発問であった。（守備の位置、カバーについて）
- ボールの奪い方を3つにしぼっていたのがわかりやすかったし、模範もわかりやすかった。
- 説明を行った後に、デモンストレーションやストップを入れていたので、動きのイメージがわかりやすかった。
- 2対2で「カバーの役割」「ゴールを守る」の説明が丁寧で良かった。

- 1対1から3対3のゲームまで段階を踏んだ指導は、生徒の能力が高まったと思う。
(特に女子)
- 常に全体を見てどのチームにも声をかけることができていた。
- 生徒への関わり方が意欲を維持させたり、肯定的で良かった。
- 積極的にほめる姿が印象的であった。声をかけられた生徒はより意欲的に取り組めていた。
- 最初に授業の流れを説明していたので生徒が見通しを持てた。
- <気になった点>
- ボールホルダーのミスが多く、守備を試す機会の検討。
- ボールの奪い方が3つあったが、低位の生徒に対して、特にどこに重点を置くかを明確にしてもよかったのではないか。
- ショルダーチャージは場合によっては、ふざけてけがにつながるのではないか。

(3) 男女共習について(女子の指導や評価等)

- <良かった点>
- 男女の能力差を考え、男女別のチームで練習した。
- 男女別のコートで行っていたので、技術的、体格的差でけがをする心配がなかった。
- 男女それぞれの実態に応じて指導できていた。
- 1年生からの積み重ねで女子の技能もサッカーを楽しめる水準になっていて、全員が良く動いていた。
- 男子と女子で到達点(技能面、今後の学習)を分けて伝えていたので良かった。
- <気になった点>
- 女子の個々の基本的な技能を高める練習はどのようにしてきたか?
- 導入段階でのボールの扱い方の指導
- 男子・女子の評価の区別について(技能評価か?知識・理解か?思考・判断か?)
- 女子の運動量

(4) その他

- <良かった点>
- 抜かれても決してあきらめない姿勢を伝えており、道徳的価値に迫っていた。
- ボールに全員が集まることがなかった。
- スペースを守ることができた。
- 全員が時間内よく動いていたので、本時の中での活動量は確保できていた。
- 活動中に生徒同士の教え合いや言葉がけが見られた。
- 集合も早く、生徒がとても意欲的に活動し、笑顔になっていた。
- チームごとの体操が少人数なので全員がきちんとできていた。
- <気になった点>
- 空間認識の理解。
- 空間のカバーをどこまで求めるか?
- 女子はボールの奪い方を一つ一つやらせても良かったのではないか?
- 「奪い方」「カバーの仕方」は、男子でも難しいので、それぞれ1時間ずつ授業をしても良かったのではないか?

3 生徒の変容

学習カードの「授業を終えて」の記述から次のような変容がみられた。

《男子》

- 最初の頃、パスミスが多かったが、パスミスやトラップミスも減少し、パスも通るようになり、他のチームとしっかり戦えるようになった。（技術）
- サッカーの技術が確実にうまくなっていると思う。シュート、パス、ディフェンスができなかったのに、サッカー部ほどではないが、けっこうできたと思います。（技術）
- 授業が進むにつれて、みんな勝つために動くようになった。（関心・意欲）
- 戦略などを考えて、前とは違ったサッカーができたと思う。（関心・意欲）
- 小学生の頃は、サッカーの楽しさが理解できなかったが、今回の授業でサッカーの楽しさを知ることができた。（関心・意欲）
- 小学校の時は、うまい人に任せっぱなしのサッカーだったが、中学校では、みんなでパスを回して、いない人は誰一人いないサッカーだった。（チームワーク）
- 今回のサッカーの授業はチームワークの大切さがよくわかった。一人が走らないと他の人が走らないといけないし、連携がとれていないと攻守にわたって効率よくプレーができない。チャンスも作れないし、逆にピンチをまねいてしまうので連携などは大切だと思った。（チームワーク）

〈男子の変容として〉

- ① 技術的な上達を大きな変容として気づいている生徒が多い。できなかったことができるようになりサッカーの楽しさを感じることができた生徒が多くみられた。
- ② サッカーの楽しさを味わうことができ、さらに意欲的に取り組むことができた生徒もみられた。戦術的なことを学び理解しプレーに活かすことが今回の授業に導入されているが、わかる楽しさを知り、プレーすることでサッカーの楽しさを味わうことができた。
- ③ 改めてチームワークの大切さを気づくことができた生徒も多い。チームで作戦を立てたり、協力して練習をしたり、相手とゲームをしたりすることでチームワークの大切さを感じ、さらに関わることでサッカーの楽しさを味わうことができた生徒が多くみられた。

《女子》

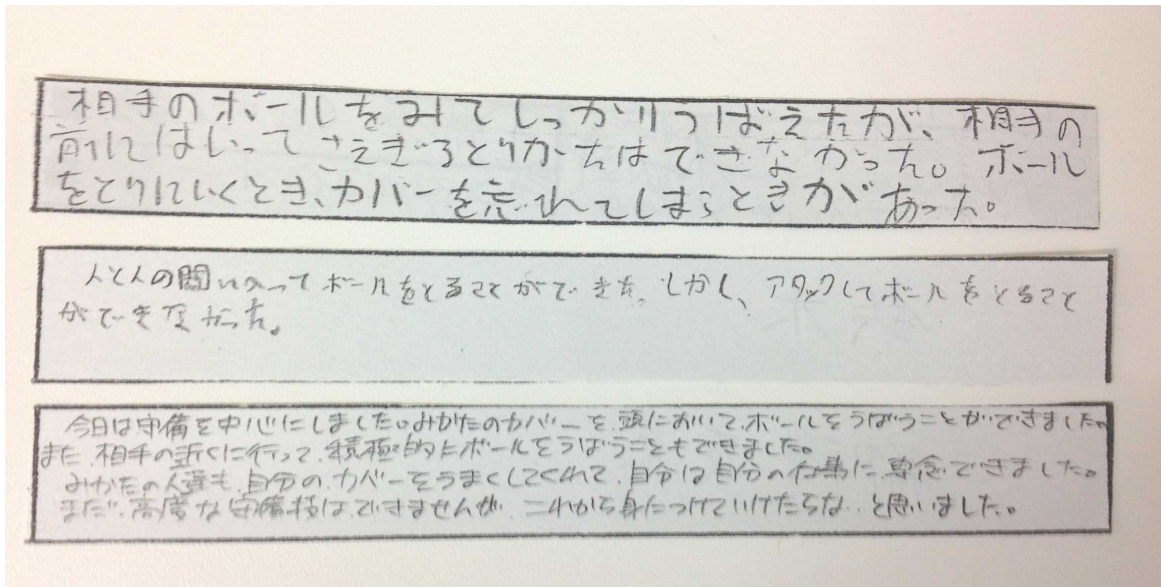
- サッカーをして、最初から積極的にボールを取りに行かなかったりしたけど、だんだんと授業をしていくとボールを追えたり、敵からボールを奪うことができたりしました。（関心・意欲）
- サッカーの授業で、ハンドブックを使って練習したら少しではあるがチームの動きが良くなった。（関心・意欲）
- サッカーはあまり好きではなかったのですが、今回たくさん試合をして好きになりました。（関心・意欲）
- チームのみんなとパスが通るようになり、連携プレーができるようになってきておもしろかったです。（技術）
- サッカーの授業で始まったばかりの時よりもパスやドリブルなどがうまくなったと思います。（技術）

〈女子の変容として〉

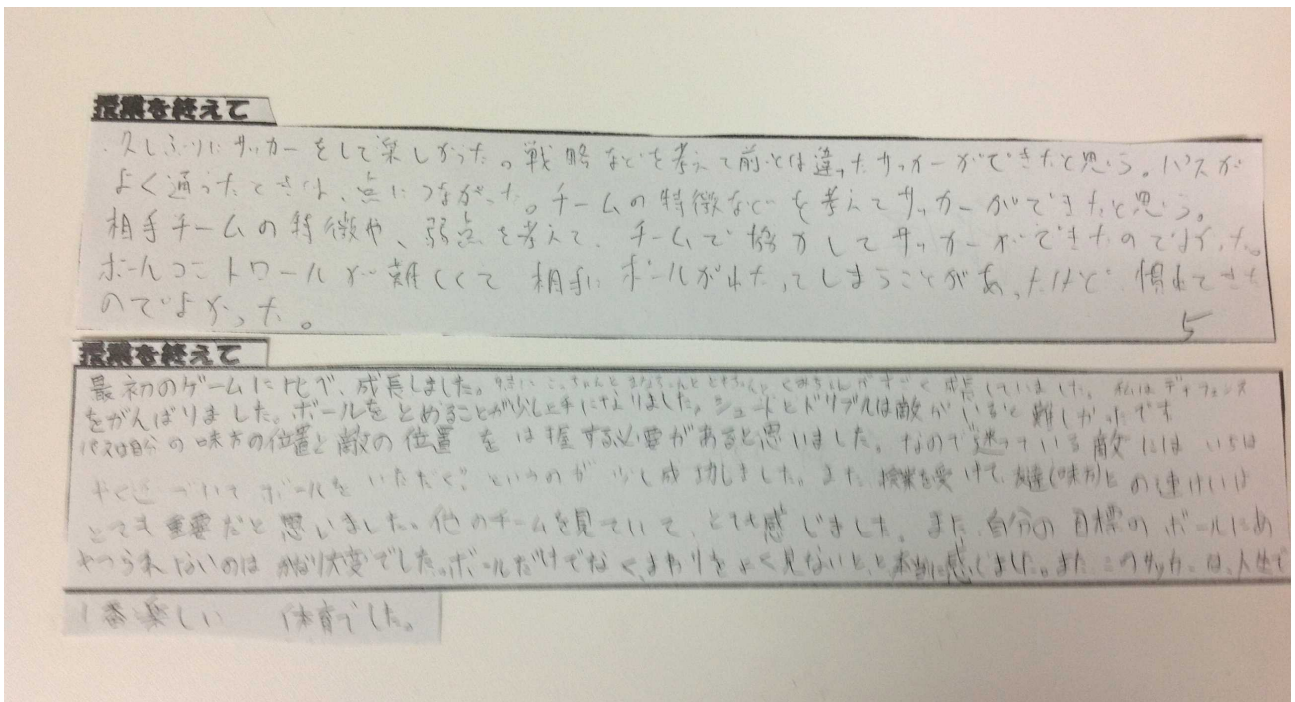
- ① サッカーに消極的であった生徒が、動く楽しさを感じ、さらにできるようになってきてサッカーの楽しさを味わうことができた生徒が多くなった。技術的な上達をあげる生徒よりサッカーの動きの質が変わったことに気づいた生徒が多く、男子とは違った内容の変容がみられていると分析できる。
- ② 技術的に上達してサッカーの楽しさを味わうことができた生徒も見られる。できなかったことが少しずつできるようになって動きの質が高まったとも考えられる。また、意欲的にプレーをするようになったので技術が高まってきたとも考えられる。女子生徒の変容の特徴かと考える。

4 授業後の生徒の感想

【上より 1組男子生徒・2組男子生徒・女子生徒】



【上より 1組男子生徒・2組女子生徒】



5 成果と課題

<成果>

- ①サッカーの授業を実践するときの参考資料となるマニュアル（サッカーハンドブック）について
 - はばたく群馬の指導プランを参考に、生徒に身につけさせたい力をイメージしながら授業の基本となる単元計画を作成した。学習のねらいをもとに、活動1・活動2のそれぞれにどのような活動が効果的なのかベースになる内容を精選し、保健体育科の先生方の誰もが活用できる単元計画を作成することができた。
 - 保健体育科の授業を行うときの基本となる学習指導要領を読み解き、学習のねらいを達成するためには、どのような学習活動（練習内容）が必要なのか、どのように系統立てた学習活動を組み立てていくのかを考え、マニュアル（サッカーハンドブック）を作成することができた。
また、作成したマニュアル（サッカーハンドブック）を生徒が主体的に活用することで、授業を効率よく効果的に実践することができた。
 - サッカーの授業に活用することができる「ドリルゲーム」「タスクゲーム」を練り上げ提案することができた。
- ②授業実践について
 - 研究授業については、教師が、単元計画の中でもっとも難しいと考える学習内容について実践することとし、参観された先生方が、授業者の発問や問いかけ、指導の仕方など参考になる活動を実践することができたと思う。
- ③効果的な用具の活用や場の工夫について
 - 場の工夫として、塩ビパイプのゴール、マーカーを利用した練習場所の作り方、10m間隔のグリッドを利用したサッカーコート of の作り方など参考になる提案ができた。
 - 参観授業を通して、どのような道具をどのように利用しているのかなどを理解してもらうことができた。

<課題>

- ①サッカーの授業を実践するときの参考資料となるマニュアルについて
 - 学習指導要領が求めている学習内容を踏まえ、生徒に身につけさせたい力を習得させるための授業づくりを提案したが、マニュアル（サッカーハンドブック）を活用した授業実践が、生徒の力を伸ばすための手立ての一つとして、十分な提案となったか疑問が残る。
 - マニュアルをどのように活かすかは授業を行う教師次第である。どの内容をどのように選択するか of の説明が不十分であった。
 - 教師の意図する活動や指導ポイント等を、参観者の方々に十分に伝達することができなかった。
- ③効果的な用具の活用や場の工夫について
 - マーカーについては、生徒に学習内容を端的かつ簡潔に伝えるためや、指導のポイントを押さえた学習の展開を考えるためにも、数・色・種類の確保などの工夫が必要である。
 - 今回の授業だけでは、参観者の方々に、場を工夫すること of の効果や場づくり of の意図を十分に理解してもらうことができなかった。（補足説明を充分に行う等 of の配慮が必要であった。）
 - サッカー of の授業だけでなく、他の単元でも適用できるマーカーなどの用具 of の活用方法を提案することができなかった。

☆ 導入 本時のねらいを確認



①ボールの奪い方を身につけよう。

②仲間をカバーする動きを覚えよう。

本時の授業のねらいを確認し、自分のめあてを学習カードに記入する。



今日はどんな練習をするのかなあ？

ハンドフックを見ながら練習内容を確認する。

☆ 用具・場の工夫



マーカーコーンの利用

- ①短時間で用意をすることができる。
- ②コートの大さをすぐに変えることができる。



塩ビパイプサッカーゴール

- ①軽くて運びやすい。
- ②倒れても安全。

☆ 活動1 ボールを奪う技能を身につけるドリルゲーム

ボールの奪い方の説明



「相手のボールの持ち方を観て
ボールを奪いに行こう。」



グループ別の練習



「ボールが出たら早く寄ろう」
「どう動いたらいいかわかるかなあ」



1対1ドリルゲーム
(女子)

1対1ドリルゲーム



2対2ドリルゲーム

☆ 活動2 ボールを奪う技能を活かしたタスクゲーム



「カバーする人はボールを持っている人や他の生徒が見えるような体の向きを気をつけて構えよう。」

ボールの奪い方の説明



3対3タスクゲーム



2対2タスクゲーム(女子)

☆ まとめ

- ① 実技でできたこと、感じたこと、学んだこと、気づいたことを学習カードに記入する。
- ② 学習カードに書いたことを発表する。



7 学習カード

【女子生徒の単元終了後の学習カード（表）】

サッカー学習カード

3年1組32番

個人目標・課題

安全に、仲良くプレイする。

チーム目標・課題

役割分担

キャプテン.....(鈴木さん)
 主審.....(岡田さん) 記録.....(吉田さん) ()
 副審.....(福島さん) () 得点・計時.....(佐藤さん) (西島) ()

学習の記録

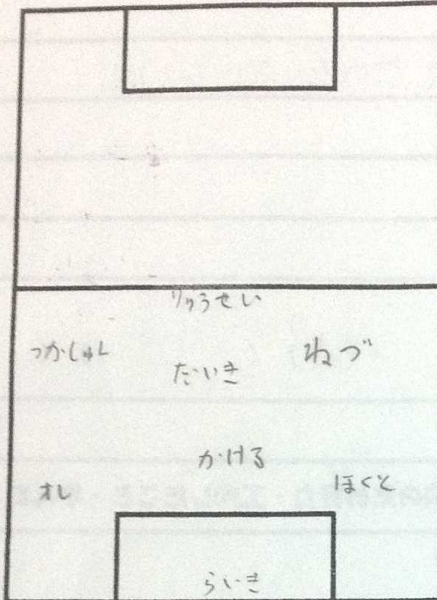
時数	月日	学習内容・自己の役割	学習のめあて	課題解決のため努力・工夫したこと・学んだこと
1	11/1		オリコレーション	
2	11/11	ためのゲーム。	自分の力を活かす。 授業のすゝめ方を理解しよう。	積極的に動くことができた。ゴールキーパーの役割を把握し、守備の要領を身につけた。ドリブルの練習で、ボールの扱いが上手になった。
3	11/14	パスやドリブルを使った攻撃。	ボールをうねらせる。	ドリブルの練習で、ボールの扱いが上手になった。パスの練習で、パスの精度が向上した。
4	11/19	シュートしてゴールを狙おう。	得点を決める。 ゴールキーパーになる。	シュートすることの楽しさを知った。ゴールキーパーの役割を把握し、守備の要領を身につけた。
5	11/20	ボールをうねらう。 (守備)	ボールのうねりを(カバー)身に付けよう。	積極的にボールをうねらせることができた。ドリブルの練習で、ボールの扱いが上手になった。
6	11/21	チームの課題を考えよう。	攻撃 どのような攻撃をしようか。 守備 どのような守備をしようか。	チームの課題を把握し、攻撃と守備の要領を身につけた。
7	11/26	世界のサッカーを学ぼう。	攻撃 守備	世界のサッカーを学んだ。攻撃と守備の要領を身につけた。
8	11/28	パスを通せるようにする。	攻撃 仲間へパスを渡し、攻撃する。 守備 しっかりと守るようになる。	パスを通せるようになった。攻撃と守備の要領を身につけた。
9	12/2		攻撃 守備	チームが活躍して、ほかのチームの所に行くとみんなうらやましている。このチームで、声かけが大切だと感じた。DFをがんばる。(DF)
10	12/3	ゲームを上手にする	攻撃 主体的にプレイしよう。 守備 チームを守ろうとする。	DFをがんばった。チームは活躍できた。ゲームを上手にできた。DFをがんばる。(DF)

授業を終えて

正直、最初は自分のチームはあまり上手いとは思ってなかった。最後ほうになると、皆うまくなっていった。全ゲームを合わせても4点しかとれなかった。FWは向いていないと思った。DFではよく守っていたと思ったので、自分はDFが得意だと思った。11月までにはチームはパスが上手にできるようになった。サッカーの授業で使った。それを練習して、少しは上手いチームのうまさをかきとった。チームが活躍して、他のチームから見た時の自分達のチームの人があまり上手いとは思ってなかった。DFでは、このゲームで、頑張った。DFでは、DFをがんばる。(DF)

【男子単元終了後の学習カード（裏）】

ポジション



チームの特徴

- ・声が出る
- ・1人1人のトラップがうまい
- ・GKがうまい

チームの弱点

- ・仲間との動きより感が近い。
- ・パスが弱い。
- ・体力がない。

(白)チームの特徴

あしけん、なしゅん、よあちゃん、ほりーを中心とした攻撃。
 他は守備なので、バランスをとっていて、守りかかたい。

(オレンジ)チームの特徴

・1人1人の能力が高く、チームワークもよく、サドをつかって攻撃してくる。

(白)チームの弱点

攻撃の中心メンバーはほりーとよあちゃん他の人であけんとなしゅんは大輝やぬづち、ちゃんらじゅんなどのカ、カーのうまい人でおさしゅんは勝機あり。

(オレンジ)チームの弱点

マークをこわしてしゅん、小板橋くんをくすうでおさえこみ、他の人にパスがいかないようにする。攻撃力とさどろかがあるが中心人物をおさえしゅんは勝機あり。